Antenna House PDF Driver API V8.0 製品説明書

アンテナハウス株式会社

目次

Antenna House PDF Driver API V8.0 製品説明書 1
1．　Antenna House PDF Driver API について 4
1.1．　Antenna House PDF Driver 4
1.2．　PDF Driver API 4
1.3．　付属 API 4
1.4．　その他のツール 5
1.4.1．　プリンターの追加と削除ツール 5
1.5．　PDF Driver API と付属 API の違い 6
1.5.1．　PDF Driver API 6
1.5.2．　付属 API 6
1.6．　V8.0 の新しい機能 7
1.6.1．　PDF2.0 形式の出力 7
1.6.2．　.NET6 対応 7
2．　動作環境・開発環境 8
2.1．　動作環境 8
2.2．　開発環境 9
3．　導入方法 10
3.1．　開発環境への導入手順 10
3.2．　プログラム実行環境への導入手順 12
4．　ライセンスファイルについて 13
4.1．　ライセンスファイル名と配置場所 13
4.2．　正規利用方法 13
4.3．　保守期限と PDF Driver API の動作について 13
4.4．　ライセンスファイルの入れ替えについて 13
4.5．　ライセンスファイルの削除 14
5．　説明書について 15
6．　制限事項 16
6.1．　PDF Driver API のサーバーサイド使用における制限事項 16

６．２．　PDF Driver API のそのほかの制限事項 17
６．３．　PDF Driver の制限事項 20
６.４．　Office アドイン機能の制限事項 23
７．　旧バージョンとの違い 25
７．１．　PDF Driver について 25
７．１．１．　プリンター名、プリンターモデル名 25
７．１．２．　設定ファイルの拡張子 25
７．１．３．　機能 25
７．１．４．　動作環境 26
７．１．５．　開発環境 26
７．２．　PDF Driver API について 27
７．２．１．　対応インターフェース 27
７．２．２．　対応する.NET バージョン 27
７．２．３．　対応する Java バージョン 27
７．２．４．　ライセンスファイルの配置場所 27
７．２．５．　動作環境 27
７．２．６．　開発環境 28
８．　商標と著作権情報 29
８．１．　商標情報 29
８．２．　第三者製ライブラリー著作権情報 29
履歴 33

１．Antenna House PDF Driver API について

『Antenna House PDF Driver API』は、『Antenna House PDF Driver』（PDF Driver）と、PDF Driver を制御する 2 種類の API で構成されています。

１.１．　Antenna House PDF Driver

『Antenna House PDF Driver』（PDF Driver）は、Windows の Graphics Device Interface（GDI）コンポーネントを利用して動作する仮想プリンタードライバーです。紙に印刷するプリンターと同様、アプリケーションの印刷ダイアログで PDF Driver を選択して印刷ができます。出力結果が紙ではなく、PDF ファイルとなります。

PDF Driver のインストール方法については『AHPDFDriver80_インストールとライセンスについて』をご参照ください。

１.２．　PDF Driver API

『Antenna House PDF Driver API』（PDF Driver API)は、

Microsoft Office Word / Excel / PowerPoint

ジャストシステム 一太郎

の各アプリケーションの COM を利用し、PDF Driver を経由して各アプリケーションの文書ファイルを PDF に出力するライブラリーです。

ファイルの開閉や印刷処理などの煩雑な処理は PDF Driver API 側で制御していますので、PDF Driver API の呼び出し側では、入出力ファイル名や設定ファイル名を指定するだけのかんたんなコードで、PDF 出力プログラムを作成することができます。

対応しているプログラム言語は、C++、.NET Framework（4.6.2 以降)、.NET6、Java(Java 11)です。

また、C++ API で作成されているコマンドライン(exe)もあります。

１.３．　付属 API

『付属 API』は、PDF Driver の出力先を制御する『出力先指定 API』と印刷設定を制御する『設定編集 API』の 2 種類です。それぞれ独立した API です。自前で開発する印刷処理に組み込み、PDF を出力するプログラムを作成することができます。

対応しているプログラム言語は、C++（出力先指定 API、設定編集 API)、,NET Framework（4.6.2 以降）（出力先指定 API のみ）です。

1.4.　その他のツール

1.4.1.　プリンターの追加と削除ツール

モデル名が「Antenna House PDF Driver 8.0」であるプリンターの追加と削除を行うツールです。

PDF Driver API や付属 API を利用して PDF 出力を行うプログラムを複数のプロセスで同時に実行するようなケースにおいて、あらかじめ本ツールでプリンターを追加してください。

１.５.　PDF Driver API と付属 API の違い

１.５.１.　PDF Driver API

形態	DLL / jar / exe
API	・C++ ・.NET Framework（4.6.2 以降） ・.NET6 ・Java ・コマンドライン
32/64bit	・C++,.NET Framework,.NET6,コマンドライン：32bit 用、64bit 用それぞれにモジュールファイルがあります。 ・Java：32bit、64bit 共通のモジュールファイルです。
動作環境に必要なソフトウェア	Antenna House PDF Driver V8.0 Microsoft Word,Excel,PowerPoint 2024/2021/2019/2016 ジャストシステム　一太郎 Pro 5 / Pro 4
PDF 出力が可能なファイル形式	・Word（doc/docx） ・Excel（xls/xlsx） ・PowerPoint（ppt/pptx） ・一太郎（jtd） ・テキスト形式
おもな機能	・PDF Driver で出力するための入出力ファイルパスの指定 ・印刷設定ファイルの指定 ・印刷設定の編集 ・PDF Driver の Office アドイン機能※1

※1　　OEM ライセンスでは、Office アドインはオプション機能です。

１.５.２.　付属 API

	出力先指定 API	設定編集 API
形態	DLL	DLL
API	・C++ ・.NET Framework（4.6.2 以降）	・C++
32/64bit	32bit 用、64bit 用それぞれにモジュールファイルがあります。	32bit 用、64bit 用それぞれにモジュールファイルがあります。
動作環境に必要なソフトウェア	Antenna House PDF Driver V8.0	Antenna House PDF Driver V8.0
PDF 出力が可能なファイル形式	制限はありません	制限はありません
おもな機能	・PDF Driver の出力先となるファイルパスの指定 ・印刷設定ファイルの指定	・PDF Driver の印刷設定の編集 ・編集した設定の保存

１．６．　V8.0の新しい機能

１．６．１．　PDF2.0形式の出力

PDF Driver V8.0では、新たにPDFバージョン「2.0」（PDF2.0）の出力に対応しました。

「PDF2.0」では、セキュリティ設定のパスワードにユニコードの文字列の指定が可能です。

１．６．２．　.NET6対応

PDF Driver APIの.NET APIを「.NET6」に対応しました。APIのインターフェース仕様に変更はありません。

※　付属APIの「出力先指定API」は「.NET6」には未対応です。改訂版にて対応予定です。

２．動作環境・開発環境

２．１．　動作環境

PDF Driver と各 API は、下記の環境で動作します。

- 対応 OS

Microsoft Windows Server 2025 / 2022 日本語版

Microsoft Windows 11 / 10　日本語版

※ただし、下記の「PDF Driver API の動作に必要なソフトウェア」に示す各ソフトウェアの動作環境に準じます。

- 必要なライブラリー

Microsoft Visual C++ 2015-2022　再頒布パッケージ ※1

Microsoft .NET Framework 4.6.2 以降 ※2

Microsoft .NET Runtime 6 ※3

Java 11 ※4

※1　必須です。PDF Driver のインストーラで動作環境の状態に応じてインストールされます。

※2　.NET Framework API を利用する場合必要です。

※3　.NET6 API を利用する場合必要です。

※4　Java API を利用する場合必要です。

- PDF Driver API の動作に必要なソフトウェア

Antenna House PDF Driver V8.0 ※1

Microsoft Word 2024 / 2021 / 2019 / 2016 ※2

Microsoft Excel 2024 / 2021 / 2019 / 2016 ※3

Microsoft PowerPoint 2024 / 2021 / 2019 / 2016 ※4

ジャストシステム　一太郎 Pro 5 / Pro 4 ※5

Microsoft 365 Word ※2 / Excel ※3 / PowerPoint ※4

※1　必須です。

※2　Word ファイルを PDF 出力する場合必要です。

※3　Excel ファイルを PDF 出力する場合必要です。

※4　PowerPoint ファイルを PDF 出力する場合必要です。

※5　一太郎ファイルを PDF 出力する場合必要です。

※6　Microsoft Office においては、インストールオプション「Visual Basic for Applications」がインストールされている必要があります。

※7　**PDF Driver API の動作環境は、各アプリケーションの動作環境に準じます。ご利用になるアプリケーションの動作環境をご確認ください。**

２.２.　開発環境

PDF Driver と各 API は、下記の環境で開発しています。

PDF Driver PDF Driver API ： C++,,NET Framework,コマンドライン付属 API	Microsoft Visual Studio 2015
PDF Driver API ： .NET6	Microsoft Visual Studio 2022
PDF Driver API ： Java	Java 11 (Adoptium OpenJDK)

３．導入方法

３.１．　開発環境への導入手順

- PDF Driver をインストールします。

インストーラ：製品パッケージ¥PDFDriver_setup¥AHPDFDriver80_setup_pda_MRxx.exe

インストーラによって、PDF Driver API の評価版ライセンスファイルがインストールされます。インストールした日から 30 日間、有効です。出力 PDF の各ページに透かし文字列が挿入されます。

必要に応じて、正規版のライセンスファイルに置き換えてください。

ライセンスファイルの場所：{PDF Driver インストールフォルダ}¥lic¥pdalic.dat

- PDF Driver API のモジュールファイルを任意の場所に配置します。

モジュールファイル：製品パッケージ¥PDFDriverAPI フォルダ

PDF Driver API のモジュールファイルについてはインストーラはありません。

「PDFDriverAPI」フォルダごと、任意の場所に配置します。

- C++ API での開発

【実行ファイル】：PdfDrvAPI80AH.dll

API の実行ファイルは、32bit 用と 64bit 用でファイルが異なります。

32bit プログラム実行：「bin32」フォルダ内のファイル

64bit プログラム実行：「bin64」フォルダ内のファイル

【インクルードファイル】：pdfdrv.h

プロジェクトでは、インクルードディレクトリに「PDFDriverAPI¥Include」フォルダパスを追加します。

ソースコードにおいて、「pdfdrv.h」を Include してください。

【ライブラリファイル】：PdfDrvAPI80AH.lib、drvselector80AH.lib

プロジェクトでは、ライブラリディレクトリに「PDFDriverAPI¥lib32」または「PDFDriverAPI¥lib4」フォルダパスを追加します。

ライブラリファイルは 32bit 用と 64bit 用は異なるファイルです。開発を行う bit 数に適切なライブラリファイルをリンクしてください。

32bit プログラム開発：「lib32」フォルダ内のファイル

64bit プログラム開発：「lib64」フォルダ内のファイル

- .NET API での開発

【プロジェクトの「参照」に追加するファイル(.NET Framework 用）】：PdfDrvNet80.dll

【プロジェクトの「参照」に追加するファイル(.NET6 用）】：PdfDrvNet80n6.dll

プロジェクトでは、.NET API 用のモジュールファイルを参照に追加します。.NET Framework 用と.NET6 用でファイルが異なります。

また、32bit 用と 64bit 用は区別されています。開発を行う bit 数に適切なモジュールファイルを参照に追加してください。

32bit プログラム開発・実行：「bin32」フォルダ内のファイル

64bit プログラム開発・実行：「bin64」フォルダ内のファイル

【実行ファイル(.NET Framework 用）】：PdfDrvNet80.dll、PdfDrvAPI80AH.dll

【実行ファイル(.NET6 用）】：PdfDrvNet80n6.dll、Ijwhost.dll 、PdfDrvAPI80AH.dll

.NET API は C++ API のラッパーとして開発されています。API 動作のためには C++ API 実行ファイル「PdfDrvAPI80AH.dll」が必要です。.NET API 用モジュールファイルと同じ場所、あるいは、環境変数「PATH」に設定されているフォルダパスに配置してください。

.NET6 では、.NET6 用ホスト DLL「Ijwhost.dll」も API の動作に必要です。

- Java API での開発

【実行ファイル】：Java¥PdfDrvAPI80.jar

この jar ファイルのみで API を実行できます。

「bin32/bin64」フォルダ内の DLL を参照するための、環境変数「PATH」へのフォルダパス設定をする必要はありません。

jar ファイルは 32bit/64bit の区別はありません。

- コマンドライン

【実行ファイル】：PdfDrvCmd80.exe、PdfDrvAPI80AH.dll

コマンドラインの本体は「PdfDrvCmd80.exe」です。コマンドラインは C++ API を使用しています。動作のためには、C++ API 実行ファイル「PdfDrvAPI80AH.dll」も必要です。「PdfDrvAPI80AH.dll」は、コマンドライン実行ファイルと同じ場所、あるいは、環境変数「PATH」に設定されているフォルダパスに配置してください。

実行ファイルは、32bit 用と 64bit 用でファイルが異なります。

32bit プログラム実行：「bin32」フォルダ内のファイル

64bit プログラム実行：「bin64」フォルダ内のファイル

３.２.　プログラム実行環境への導入手順

- PDF Driver をインストールします。

- PDF Driver API の実行ファイルと作成したプログラムファイルを任意の場所に配置します。

- PDF Driver API のライセンスファイルを正規版に置き換えます。

ライセンスファイルの場所；{PDF Driver インストールフォルダ}¥lic¥pdalic.dat

- 必要に応じて、環境変数「PATH」を設定します。

４．ライセンスファイルについて

４.１．　ライセンスファイル名と配置場所

・　ライセンスファイル名

ファイル名：pdalic.dat

・　ライセンスファイルの場所

PDF Driver V8.0 のインストールフォルダ¥lic

４.２．　正規利用方法

ライセンスファイルは、PDF Driver のインストーラによりインストールされます。

インストールされるライセンスファイルは、インストール後 30 日間有効な評価用ライセンスです。

製品ご購入後、弊社からライセンスファイルを送付します。このライセンスファイルに入れ替えることにより、正規利用できるようになります。

４.３．　保守期限と PDF Driver API の動作について

ライセンスファイルには、保守契約期間情報があります。

保守契約が有効である間にリリースされた改訂版については、アップデートしてご利用いただけます。

保守期間終了後も、それまでと同様にご利用いただけます。

ただし、保守契約終了後にリリースされた改訂版については、アップデートしてご使用になると PDF Driver API は評価版として動作します。このため、出力される PDF のページには評価用透かし文字列が挿入されます。

最新の改訂版を正規利用するには、保守契約の更新をご検討ください。

４.４．　ライセンスファイルの入れ替えについて

評価版から正規版に移行する場合や保守契約を更新した場合、弊社から新しい正規のライセンスファイルを送付します。

新しいライセンスファイルに入れ替え、ご利用ください。

ライセンスファイルの入れ替えは、PDF Driver API および PDF Driver を利用するプログラムが実行されていないときに行ってください。

ファイル入れ替え後にコンピュータの再起動は必要ありません。

４.５.　ライセンスファイルの削除

PDF Driver をアンインストールしてもライセンスファイルは削除されません。

５．説明書について

以下の説明書を用意しています。

説明書名（ファイル名）	内容
Antenna House PDF Driver API V8.0 製品説明書 （AHPDFDriverAPI80_製品説明書.pdf）（本書）	製品全般の説明書
Antenna House PDF Driver API V8.0 PDF　Driver API インターフェース説明書 （AHPDFDriverAPI80_インターフェース説明書.pdf）	C++/.NET/Java 各インターフェースについての説明書
Antenna House PDF Driver API V8.0 コマンドライン説明書 （AHPDFDriverAPI80_コマンドライン説明書.pdf）	コマンドラインについての説明書
Antenna House PDF Driver V8.0 付属 API 説明書 （AHPDFDriver80_付属 API 説明書.pdf）	付属 API についての説明書
Antenna House PDF Driver V8.0 プリンターの追加と削除ツール説明書 （AHPDFDriver80_プリンター追加削除ツール説明書.pdf）	PDF Driver V8.0 のプリンターの追加と削除ツールについての説明書
AHPDFDriver80_インストールとライセンスについて （AHPDFDriver80_インストールとライセンスについて.pdf）	PDF Driver のインストール・アンインストール方法とライセンスファイルについての説明書

６．制限事項

６．１．　PDF Driver API のサーバーサイド使用における制限事項

1. Microsoft は、Microsoft Office（以下 Office）のオートメーションをサーバーサイドで使用することについての技術サポートを行っていません。また、ライセンスを持たないワークステーションに対しサーバーサイドで Office サービスを提供することも許可していません。

   参考情報：Office のサーバーサイド オートメーションについて

   PDF Driver API は Office のオートメーションを利用した API です。したがって、PDF Driver API を使用し Word／Excel／PowerPoint 各ファイルの PDF 出力を行うプログラムをサーバーサイドで運用する場合には、Office のライセンス規約にしたがわなければなりません。このような場合、弊社の PDF Driver API のライセンスとは別に、お客様が構築されようとしているサーバー（サービス）を利用するすべてのユーザー（クライアント）が Office のライセンスを持つ必要があります。このような使用方法をお考えの場合には、Office のライセンスについてもご注意ください。Office のライセンスについては Microsoft にお問い合わせください。なお、Office のライセンス違反等の問題が発生いたしましても当社は一切関知いたしません。

2. PDF Driver API を利用したプログラムの実行ファイルと、PDF Driver API が印刷を行うアプリケーション（Microsoft Office、ジャストシステム　一太郎）は同じセッションで動作させる必要があります。

６.２.　PDF Driver API のそのほかの制限事項

1. PDF Driver API を利用して Microsoft Word / Excel / PowerPoint、ジャストシステム　一太郎の各ファイルの PDF 出力処理を行う場合、これらのアプリケーションの COM(Component Object Model)を使用します。アプリケーションが更新されたりバージョンアップされたとき、出力 PDF の内容が更新／バージョンアップ前の結果と異なる、あるいは元文書のレイアウトやデザインと異なる、PDF 変換できない、Office アドイン変換のオプションが効かない、印刷速度が遅くなるなど印刷品質への影響や、COM の動作が変わり PDF Driver API の動作への影響が出る場合があります。
2. Microsoft365 の場合、頻繁に更新や機能の追加が行われます。PDF Driver、PDF Driver API への影響が確認されたとき、それらにすぐに対応できない場合があります。
3. PDF Driver API は印刷アプリケーション（Word / Excel / PowerPoint / 一太郎）の動作に依存します。このため、停止しないで動作することは保証していません。停止が問題になるようなサービス等では、上位システムでエラーや停止時の対処また負荷分散などの機能を組み込まれる事を推奨いたします。
4. PDF Driver API の動作環境は、印刷アプリケーション（Word / Excel / PowerPoint / 一太郎）の動作環境に準じます。ご利用になる印刷アプリケーションの動作環境をご確認ください。
5. PDF Driver API V8.0 は、PDF Driver V7.5 以前の PDF Driver を制御することはできません。
6. PDF Driver V8.0 は、PDF Driver API V7.5 以前の API では制御できません。
7. PDF Driver API を利用して印刷を行うプログラムが動作している環境では、PDF Driver API 以外から PDF Driver が使用されないようにしてください。
8. PDF Driver API を利用して印刷を行うプログラムが、ひとつのユーザー環境で複数同時に動作する場合は、あらかじめ、モデル名が「Antenna House PDF Driver 8.0」であるプリンターを複数個用意してください。製品付属の「プリンターの追加と削除ツール」でプリンターの複製を作成することができます。
9. PDF Driver API を利用した複数スレッド構成のプログラムにおいて各スレッドで印刷を行う場合、あらかじめ、モデル名が「Antenna House PDF Driver 8.0」であるプリンターを複数個用意してください。製品付属の「プリンターの追加と削除ツール」でプリンターの複製を作成することができます。
10. PDF Driver API を使用したプログラムを設計するさい、１つのスレッドから同時に２つの印刷処理が行われないよう制御する必要があります。１つのスレッド内で２つ以上同時に印刷を行うと、プリンタードライバーは正常に動作しません。
11. Microsoft Office アドインを使用した PDF 出力は Microsoft Office Word/Excel/PowerPoint 文書のみが対象となります。
12. PDF 出力中に元アプリケーションがエラーとなった場合、PDF の生成は中止されます。
13. PDF Driver API を使用したプログラムにおいて、セクションが複数存在する Word ファイルの PDF 出力では、印刷ページ範囲指定や 1 ページ単位での PDF 出力が正常に動作しない場合があります。

14. Excel ファイルにおいて、「ページ設定」の「解像度」がシートごとに異なる場合は、PDF Driver API が全シートのなかでもっとも大きな解像度の値に再設定して変換処理を行います。このため、シートの内容によっては、ページレイアウトがオリジナルと異なる場合があります。

15. Excel ファイルにおいて「ページ設定」の「解像度」が PDF Driver で扱うことができない値の場合、PDF Driver API は印刷エラーを回避するために PDF Driver が持つ解像度のいちばん近い値に設定します。このためシートの内容によっては、ページレイアウトがオリジナルと異なる場合があります。

16. Excel ファイルにおいて、Open や Close などのイベントに対してマクロが設定されているとき、マクロでメッセージが表示されたり、エラーによって Excel アプリケーションからメッセージが表示されるような場合、PDF Driver API の変換処理は中断されます。

17. PDF Driver API の処理において、一太郎ファイルが複数シートを持つ場合は、カレントシート（＝開いたときに最前面にあるシート）のみを PDF に出力します。

18. PDF Driver API の処理において、一太郎ファイルのカレントシートが Excel 形式の場合、Excel ファイルが複数シートを持ちシートの解像度が異なるなどして印刷ジョブが分かれるケースでは、出力される PDF が複数に分かれます。

    出力される PDF ファイル名の例：

    test.pdf

    test.pdf.pdf

    test.pdf.pdf.pdf

19. PDF Driver API の処理において、一太郎ファイルのカレントシートが PowerPoint 形式の場合、印刷時に PowerPoint 画面が前面に表示されます。

20. PDF Driver API の処理において、一太郎ファイルのカレントシートが Word 形式の場合、1 ページ目が出力されない場合があります。

21. PDF Driver API の処理において、一太郎ファイルのカレントシートが Word 形式の場合、2 ページ目以降の数ページだけ出力される場合があります。

22. PDF Driver API の処理において、動作環境のアプリケーションが「一太郎」のバージョンによっては、印刷時に一太郎の画面が前面に表示されます。

23. PowerPoint には「用紙に合わせて拡大／縮小」というオプションがあります。PDF Driver API ではこの設定値を制御していません。PowerPoint ファイルが持つ設定に従った動作となります。

24. PDF Driver API のアドイン変換関数を使用する場合、１ページ（１シート／１スライド）ごと PDF 出力を行うオプションは使用できません。

25. テキスト形式ファイルを PDF 変換する場合、文字コードは Word が判別しています。使用されている文字コードやテキスト内容によっては出力結果が文字化けする場合があります。

26. PDF Driver API の処理において、Excel ファイルの非表示シートは PDF 出力されません。

27. PDF Driver API の通常出力処理において、PowerPoint ファイルの非表示スライドは出力されませ

ん。アドイン変換処理の場合、非表示スライドは PDF 出力対象となります。

28. Word,Excel,PowerPoint,一太郎形式以外のファイルについて、テキスト形式と判定され変換が行われる場合があります。

※　　OEM ライセンスでは、Office アドインはオプション機能です。

６.３.　PDF Driver の制限事項

1. PDF Driver の出力結果は、オペレーティングシステム（OS）の種類やバージョンや更新、印刷を行うアプリケーションの更新やバージョンアップにより、出力 PDF の内容が更新／バージョンアップ前の結果と異なる、あるいは元文書のレイアウトやデザインと異なる、PDF 変換できない、Office アドイン変換のオプションが効かない、印刷速度が遅くなるなど印刷品質に影響が出る場合があります。
2. Adobe Acrobat などの PDF ビューアから PDF Driver を指定し印刷する動作、および印刷結果である PDF ファイルについては保証されません。
3. PDF Driver は印刷アプリケーションの動作に依存します。このため、停止しないで動作することは保証していません。停止が問題になるようなサービス等では、上位システムでエラーや停止時の対処また負荷分散などの機能を組み込まれる事を推奨いたします。
4. 印刷処理速度や消費メモリ、出力結果の PDF などについて、特定の性能や品質を保証するものではありません。Adobe Acrobat や Adobe Acrobat の「Adobe PDF」を含む他社製品の PDF 生成ソフトウェアと同等の品質や性能を保証するものではありません。
5. PDF Driver はネットワークプリンターとしてご利用いただくことはできません。
6. １つのスレッドから同時に２つ以上の印刷を行うようなしくみのアプリケーションにおいて 2 つ以上のファイルを同時に PDF Driver に対して印刷すると PDF Driver は正しく動作しません。
7. 保存ダイアログで「キャンセル」を行った場合、PDF Driver は印刷処理を続行します。最後に PDF ファイルを出力しないことで「キャンセル」とする動作仕様となっています。このため、印刷内容によりキャンセルされるまでに時間がかかる場合があります。
8. PDF Driver V8.0 で印刷中にエラーが発生し印刷が中止された場合、PDF Driver V8.0 用の一時フォルダ「C:¥Users¥ ログインユーザー名¥AppData¥Local¥Temp¥AHPD80_temp」に拡張子「.tmp」のファイルが残る場合があります。
9. Windows のプリンター一覧に表示されるプリンター名を変更しないでください。一部の機能が正常に動作しなくなるおそれがあります。
10. PDF Driver を使用した場合に作成可能な PDF バージョンは、PDF1.3～PDF1.7 と PDF2.0 です。
11. 縦書きや文字が回転されている場合、フォントを埋め込む設定で印刷を行ってください。PDF にフォントが埋め込まれていないとき、文字が元文書とは異なる方向に回転したり、表示位置がずれる場合があります。
12. 縦書き文字の出力対応は、MS ゴシックと Arial Unicode MS を基準としています。
13. 対応フォントは、True Type、Open Type、Type1 フォントです。Windows で使用可能なフォント以外については動作保証されません。また、フォントの仕様に沿っていないフォントについては動作保証されません。
14. Open Type Font では、フォントによって縦書き記号が回転する場合があります。

15. Open Type Font をフォント作成ツール「FontForge」で True Type Font に変換したフォントは正しく変換されません。

16. 透過画像や図形が含まれているとき、出力された PDF では黒く塗りつぶされた表示になる場合があります。

17. 透過画像や図形が含まれているとき、PDF/A や PDF/X 設定時に PDF が出力されない、あるいは、ファイルサイズが 0KB である PDF ファイルが残る場合があります。

18. 画像や図形のグラデーションやパターンが元文書の通りに変換されない場合があります。

19. Excel ファイルにおいて、「ページ設定」の印刷品質（解像度）設定値の変更を行った場合、出力される PDF ファイルの結果が印刷プレビューと異なり、行やページが増減する場合があります。PDF Driver で出力する場合、あらかじめ、PDF Driver を選択した状態でシートのレイアウトを行ってください。

20. プリンターが出力するときのピクセル数は、「用紙サイズ（インチ換算）×解像度」で決まります。この値が非常に大きくなる設定のときに、印刷が行われず PDF ファイルが出力されない場合があります。そのような場合は、用紙サイズを小さくするか、あるいは、解像度を低い値に設定してください。設定値の目安は、「用紙サイズ（縦）×解像度」あるいは「用紙サイズ（横）×解像度」が 16bit の上限である「65535」より小さくなる値です。（参考：3600 dpi なら約 460mm、600 dpi なら約 2750mm が上限値となります）

21. PDF Driver は、Modern UI に対応していません。Modern UI を持つソフトウェアから印刷を行った場合、ユーザーインターフェースが期待される動作をせず、ファイル保存ダイアログはデスクトップ上に表示されます。

22. PDF Driver は、Windows のサービス（Windows サービス、Internet Information Service など）での利用において、外字出力には対応していません。

23. 透かしの配置を最背面に設定した場合、印刷を行うアプリケーションによっては、透かしが他のデータの背面に配置され見えない状態になることがあります。

24. 透かし文字列のフォントとして「Roman」など fon 形式フォントを選択した場合、PDF 出力に失敗し、PDF が出力されない、もしくは 0 バイトの PDF ファイルが残ります。

25. PDF Driver は印刷ジョブ名を PDF ファイル名としています。Windows においてファイル名に使用できない 9 種類の記号 ￥ / ： ＊ ？ “ ＜ ＞ ｜ が印刷ジョブ名に含まれている場合、PDF Driver はこれらの記号を「_」（0x5F）に置換し PDF ファイル名とします。

26. PDF Driver は印刷ジョブ名を PDF ファイル名としています。印刷ジョブ名に制御コード（0x01～0x1F）が含まれる場合、これを半角スペースに置換し PDF ファイル名とします。

27. グレースケールあるいはモノクロ変換設定でかつ PDF ファイルを透かしとして指定している場合、透かし部分はグレースケールおよびモノクロ変換は行われません。

28. Web フォントを使用した Web ページの PDF 出力には対応していません。

29. Windows のバリアブルフォントには対応していません。

30. 設定オプション「文中の URL にリンクをつける」について、URL 文字列内に改行が存在したり、印

刷を行うアプリケーションの仕様により印刷データとして URL アドレスの終端までをひとまとまりの文字列として扱われていない場合に、正しくリンク設定が行われません。

31. PDF ファイルを「透かし」とする場合、PDF バージョンは「PDF のバージョン」で指定する PDF バージョンと同一、もしくはそれ以下の PDF バージョンのファイルを指定してください。

32. 「PDF のバージョン」に「PDF2.0」を指定したとき、「透かし」として PDF を指定する場合は PDF2.0 のファイルを使用してください。

33. 「PDF のバージョン」に「PDF/A-2b」を指定しカラープロファイルが「CMYK」、かつ「圧縮」タブで「JPEG2000」を指定している場合、JPEG2000 ではなく JPEG 圧縮が行われます。カラープロファイルが「RGB」の場合は JPEG2000 圧縮が行われます。

34. Word と Excel において、ファイルの用紙サイズ設定が「Letter」であるときに「A4」のページサイズで PDF 出力される場合があります。Word／Excel のオプション「詳細設定」において、「A4 または 8.5 x 11 インチの用紙サイズに合わせて内容を調整する」という設定が有効であるとき A4 サイズとなります。Letter サイズで PDF 出力する場合はこの設定を無効にしてください。

35. PowerPoint ファイルのスライドの印刷の向きが「横」の場合、印刷設定の「用紙設定」で「サイズ指定」したとき、PDF ではページサイズの幅と高さが入れ替わった大きさになります。

36. ２つの画像を SRCAND のラスタオペレーションで印刷する処理に対し、PDF Driver では「Blend Mode」という描画方法で PDF に変換しています。「Blend Mode」は「PDF1.4」以降の仕様であるため、「PDF バージョン」が「PDF1.3」設定では、一方の上に他方がのった状態で出力されます。また、透過が禁止されている「PDF/A-1b」「PDF/X-1a」「PDF/X-3」設定の場合も、一方の上に他方がのった状態で出力されます。

６.４.　Office アドイン機能の制限事項

※OEM ライセンスでは、Office アドインはオプション機能です

1. PDF Driver の出力結果は、オペレーティングシステム（OS）の種類やバージョンや更新、印刷を行うアプリケーションの更新やバージョンアップにより、出力 PDF の内容が更新／バージョンアップ前の結果と異なる、あるいは元文書のレイアウトやデザインと異なる、PDF 変換できない、Office アドイン変換のオプションが効かない、印刷速度が遅くなるなど印刷品質に影響が出る場合があります。
2. Microsoft365 の場合、頻繁に更新や機能の追加が行われます。Office アドイン機能への影響が確認されたとき、それらにすぐに対応できない場合があります。
3. Word 文書において「変更履歴の記録」が付与されている場合、見出しの PDF しおりへの変換やハイパーリンクの変換などが正しく処理されない場合があります。その場合、Word 文書において変更履歴を「承諾」する処理を行い保存した、変更履歴を持たないファイルにした後、アドイン変換を行ってください。
4. PDF のリンクとして出力されるハイパーリングは以下の種類です。

・文書内の別ページへ移動するリンク

・URL へのリンク

・電子メールアドレス

5. 文書内を移動するリンク、URL リンク以外のハイパーリンクについては、リンク情報が正しく出力されない場合があります。
6. 以下のようなハイパーリンクを含む文書を PDF 出力すると、ハイパーリンクの指定範囲（＝リンク枠の位置）が不正になることがあります。

・改行を含む文字列にハイパーリンクの指定がある場合

・縦書き文書内でハイパーリンクを指定した場合

・ハイパーリンクを付加した Word アートや図形に「折り返しの種類と配置」機能等を加えた場合

・HTML のブラウザでの表示結果を Word に貼付した場合

・Word 文書内の画像やオートシェイプに設定されたハイパーリンク

7. Excel ファイルのシートにおいて印刷範囲が設定されている場合は、リンクの出力やコメントの注釈を作成することができません。該当するファイルの場合は、アドイン出力開始時に警告メッセージが表示されます。

8. Excel ファイルのシートにおいてヘッダに印刷タイトルとして「行」「列」タイトルが指定されている場合、リンクの出力やコメントの注釈を作成することができません。該当するファイルの場合は、アドイン出力開始時に警告メッセージが表示されます。
9. Excel ファイルにおいて保護シートが存在する場合は、リンクの出力やコメントの注釈を作成することができません。該当するファイルの場合は、アドイン出力開始時に警告メッセージが表示されます。
10. Excel ファイルにダイアログシートが含まれている場合、ダイアログシートより後ろのシートに対しては、しおりやリンクの出力、コメントの注釈の作成はできません。該当するファイルの場合は、アドイン出力開始時に警告メッセージが表示されます。
11. 印刷設定の PDF バージョンが PDF/A あるいは PDF/X のとき、「コメントをノート注釈に変換する」設定でアドイン変換を実行した場合は、印刷途中で失敗するため PDF ファイルが出力されません。
12. 印刷設定の PDF バージョンが PDF/A のとき、「元の Word/Excel/PowerPoint ファイルを添付する」設定でアドイン変換を実行した場合は、印刷途中で失敗するため PDF ファイルが出力されません。
13. 印刷設定の PDF バージョンが PDF/X のとき、「元の Word/Excel/PowerPoint ファイルを添付する」、「リンクを出力する」、「相互参照と目次をリンクに変換する」、「脚注をリンクに変換する」設定でアドイン変換を実行した場合は、出力される PDF ファイルは PDF/X の仕様の範囲外となります。
14. PowerPoint アドイン変換において、表の中の文字列に設定されたハイパーリンクを PDF のリンク注釈として正しく出力できません。
15. Word 文書上に隠し文字が存在する場合、しおりやリンクは作成されません。
16. Word 文書において、図形内の見出しはしおりに変換されません。
17. Excel の HYPERLINK 関数によるリンクは PDF のリンクに変換されません。

７. 旧バージョンとの違い

７.１.　PDF Driver について

７.１.１.　プリンター名、プリンターモデル名

V6.0	Antenna House PDF Driver 6.0
V7.5	Antenna House PDF Driver 7.5
V8.0	Antenna House PDF Driver 8.0

７.１.２.　設定ファイルの拡張子

V6.0	printSetting3
V7.5	ps4
V8.0	ps4

７.１.３.　機能

７.１.３.1.出力対応している PDF バージョンと規格

V6.0	PDF1.3～PDF1.7 PDF/A-1b:2005 PDF/X-1a:2001、PDF/X-1a:2003 PDF/X-3:2002、PDF/X-3:2003
V7.5	PDF1.3～PDF1.7 PDF/A-1b:2005、PDF/A-2b PDF/X-1a:2001、PDF/X-1a:2003 PDF/X-3:2002、PDF/X-3:2003 PDF/X-4:2008
V8.0	PDF1.3～PDF1.7、PDF2.0 PDF/A-1b:2005、PDF/A-2b PDF/X-1a:2001、PDF/X-1a:2003 PDF/X-3:2002、PDF/X-3:2003 PDF/X-4:2008

７.１.３.2.セキュリティ設定の種類

セキュリティの種類は、指定された PDF バージョンにより自動的に決定されます。

V6.0	40bit RC4、128bit RC4、128bit AES、256bit AES
V7.5	40bit RC4、128bit RC4、128bit AES、256bit AES
V8.0	40bit RC4、128bit RC4、128bit AES、256bit AES

７.１.３.3.同一名のファイルが存在する場合の動作オプション

V6.0	設定項目名：同名のファイルがある場合、上書きする ・有効な場合：無条件に上書きする ・無効な場合：保存ダイアログを表示する
V7.5	次の４項目から選択する ・ダイアログを表示する ・上書きする ・連番[(1),(2)...]を付ける ・出力しない（エラーにする）
V8.0	次の４項目から選択する ・ダイアログを表示する ・上書きする ・連番[(1),(2)...]を付ける ・出力しない（エラーにする）

７.１.３.4.色変換

V6.0	-
V7.5	グレースケール変換、モノクロ変換
V8.0	グレースケール変換、モノクロ変換

７.１.４.　動作環境

V6.0	Microsoft Windows 10 Microsoft Windows Server 2019 / 2016
V7.5	Microsoft Windows 11 / 10 Microsoft Windows Server 2022 / 2019 / 2016
V8.0	Microsoft Windows 11 / 10 Microsoft Windows Server 2025 / 2022 / 2019 / 2016

※　プラットフォーム製造元のサポート期間が終了したオペレーティングシステムについては動作保証できません。「サポート期間」には、有償の延長サポート期間は含まれません。

７.１.５.　開発環境

V6.0	Microsoft Visual Studio 2010
V7.5	Microsoft Visual Studio 2015
V8.0	Microsoft Visual Studio 2015

７．２．　PDF Driver API について

７．２．１．　対応インターフェース

V6.0	C++ / .NET Framework / Java / COM / コマンドライン
V7.5	C++ / .NET Framework / Java / コマンドライン
V8.0	C++ / .NET Framework / .NET6 / Java / コマンドライン

７．２．２．　対応する.NET バージョン

V6.0	.NET Framework 2.0 / 3.0 / 3.5 / 4.0 / 4.5
V7.5	.NET Framework 4.5.2 以降
V8.0	.NET Framework 4.6.2 以降 .NET6

７．２．３．　対応する Java バージョン

V6.0	Java 8
V7.5	Java 8
V8.0	Java 11

７．２．４．　ライセンスファイルの配置場所

V6.0	ライセンスファイルを配置した場所をレジストリキーに設定する。
V7.5	「{PDF Driver V7.5 のインストールフォルダー¥lic}」に配置する。 レジストリキー設定は不要。
V8.0	「{PDF Driver V8.0 のインストールフォルダー¥lic}」に配置する。 レジストリキー設定は不要。

７．２．５．　動作環境

V6.0	Microsoft Windows 10 Microsoft Windows Server 2019 / 2016 Microsoft Office 2016 / 2013 Word / Excel / PowerPoint ジャストシステム　一太郎 Pro 4
V7.5	Microsoft Windows 11 / 10 Microsoft Windows Server 2022 / 2019 / 2016 Microsoft Office 2021 / 2019 / 2016 / 2013 Word / Excel / PowerPoint ジャストシステム　一太郎 Pro 5 / Pro 4
V8.0	Microsoft Windows 11 / 10 Microsoft Windows Server 2025 / 2022 / 2019 / 2016 Microsoft Office 2024 / 2021 / 2019 / 2016 Word / Excel / PowerPoint Microsoft 365 Word / Excel / PowerPoint ジャストシステム　一太郎 Pro 5 / Pro 4

※　プラットフォーム製造元のサポート期間が終了したオペレーティングシステムについては動作保証できません。「サポート期間」には、有償の延長サポート期間は含まれません。

７．２．６．　開発環境

V6.0	Microsoft Visual Studio 2010
V7.5	Microsoft Visual Studio 2015
V8.0	Microsoft Visual Studio 2015 Microsoft Visual Studio 2022　※.NET6 API 開発

※　付属 API の旧バージョンとの相違点については、『Antenna House PDF Driver V8.0 付属 API 説明書（AHPDFDriver80_付属 API 説明書.pdf）』をご参照ください。

８．商標と著作権情報

８．１．　商標情報

Adobe、Acrobat、および Reader は、アドビ システムズ社の米国ならびに他の国における登録商標または商標です。

Microsoft、Windows、OpenType は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

TrueType は米国その他の国で登録された米国アップルコンピュータ社の商標です。

その他記載されている全ての会社名および製品名は、個々の所有者の登録商標または商標です。

８．２．　第三者製ライブラリー著作権情報

- libtiff

Silicon Graphics has seen fit to allow us to give this work away. It is free. There is no support or guarantee of any sort as to its operations, correctness, or whatever. If you do anything useful with all or parts of it you need to honor the copyright notices. I would

also be interested in knowing about it and, hopefully, be acknowledged.

The legal way of saying that is:

Copyright (c) 1988-1997 Sam Leffler

Copyright (c) 1991-1997 Silicon Graphics, Inc.

Permission to use, copy, modify, distribute, and sell this software and its documentation for any purpose is hereby granted without fee, provided that

(i) the above copyright notices and this permission notice appear in all copies of the software and related documentation, and (ii) the names of Sam Leffler and Silicon Graphics may not be used in any advertising or publicity relating to the software without the specific, prior written permission of Sam Leffler and Silicon Graphics.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS-IS" AND WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND,EXPRESS, IMPLIED OR OTHERWISE, INCLUDING WITHOUT LIMITATION, ANY WARRANTY OF MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.

IN NO EVENT SHALL SAM LEFFLER OR SILICON GRAPHICS BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, INCIDENTAL, INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OF ANY KIND,OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS,WHETHER OR NOT ADVISED OF THE POSSIBILITY OF DAMAGE, AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

- zlib

(C) 1995-2017 Jean-loup Gailly and Mark Adler

This software is provided 'as-is', without any express or implied warranty. In no event will the authors be held liable for any damages arising from the use of this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose,including commercial applications, and to alter it and redistribute it freely, subject to the following restrictions:

1. The origin of this software must not be misrepresented; you must not claim that you wrote the original software. If you use this software in a product, an acknowledgment in the product documentation would be appreciated but is not required.

2. Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be misrepresented as being the original software.

3. This notice may not be removed or altered from any source distribution.

Jean-loup Gailly Mark Adler

jloup@gzip.org madler@alumni.caltech.edu

- BOOST

Boost Software License - Version 1.0 - August 17th, 2003

Permission is hereby granted, free of charge, to any person or organization obtaining a copy of the software and accompanying documentation covered by this license (the "Software") to use, reproduce, display, distribute,

execute, and transmit the Software, and to prepare derivative works of the Software, and to permit third-parties to whom the Software is furnished to do so, all subject to the following:

The copyright notices in the Software and this entire statement, including the above license grant, this restriction and the following disclaimer,must be included in all copies of the Software, in whole or in part, and all derivative works of the Software, unless such copies or derivative works are solely in the form of machine-executable object code generated by

a source language processor.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY,FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, TITLE AND NON-INFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDERS OR ANYONE DISTRIBUTING THE SOFTWARE BE LIABLE FOR ANY DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, TORT OR OTHERWISE,

ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

- picojson

Copyright 2009-2010 Cybozu Labs, Inc.

Copyright 2011-2014 Kazuho Oku

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice,this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO,THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

- POCO C++ LIBRARIES

THE BOOST SOFTWARE LICENSE 1.0

Permission is hereby granted, free of charge, to any person or organization obtaining a copy of the software and accompanying documentation covered by this license (the "Software") to use, reproduce, display, distribute, execute, and transmit the Software, and to prepare derivative works of the Software, and to permit third-parties to whom the Software is furnished to do so, all subject to the following:

The copyright notices in the Software and this entire statement, including the above license grant, this restriction and the following disclaimer, must be included in all copies of the Software, in whole or in part, and all derivative works of the Software, unless such copies or derivative works are solely in the form of machine-executable object code generated by a source language processor.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, TITLE AND NON-INFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDERS OR ANYONE DISTRIBUTING THE SOFTWARE BE LIABLE FOR ANY DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

※　その他、PDf Driver のインストールフォルダー内のドキュメントをご参照ください。

履歴

日付	更新内容
2022.10.6	・初版
2023.3.28	・「4.3.PDF Driver の制限事項」の「(32)」項を追記しました。
2023.4.28	・OEM ライセンスについての注記を追記しました。OEM ライセンスでは、Office アドインはオプション機能です。
2023.6.9	・「6.2.第三者製ライブラリー著作権情報」に「POCO C++ LIBRARIES」の項を追加しました。改訂 12（8.0.12.0）以降で使用しています。
2023.11.15	・「2.1.動作環境」の「対尾 OS」項に「※」の注意書きを追加しました。 ・「2.1.動作環境」の「PDF Driver API の動作に必要なソフトウェア」項に「※7」を追加しました。 ・「4.2.PDF Driver API のその他の制限事項」を修正しました、。 ・「4.3.PDF Driver の制限事項」を修正しました。
2024.3.13	・「2.1.動作環境」を修正しました。 ・「5.1.4.動作環境」「5.2.5.動作環境」の表外に補を追加しました。
2024.3.27	・「4.4.Office アドイン機能の制限事項」を追加しました。
2024.6.10	・「2.1.動作環境」の「DF Driver API の動作に必要なソフトウェア」において、ソフトウェアのリストに「Microsoft365 Word / Excel / PowerPoint」を追加しました。 ・「4.2.PDF Driver API のそのほかの制限事項」において(1)の説明文を修正し、また(2)項を追加しました。 ・「4.3.PDF Driver の制限事項」の(1)の説明文を修正しました。 ・「4.4.Office アドイン機能の制限事項」に(1)、(2)項を追加しました。
2024.10.9	・「4.2.PDF Driver API のそのほかの制限事項」において「23」の説明文を修正しました。 ・「4.2.PDF Driver API のそのほかの制限事項」において「28」を追加しました。 ・「4.3.PDF Driver の制限事項」の「36」を追加しました。
2024.11.26	・「3.説明書について」に 1 項追加しました。
2025.1.20	・「2.1.動作環境」に「Server 2025」を追加しました。 ・「3.導入方法」と「4.ライセンスファイルについて」を追加しました。
2025.2.4	・「2.1.動作環境」の「DF Driver API の動作に必要なソフトウェア」において、ソフトウェアのリストに「Microsoft Word 2024」、「Microsoft Excel 2024」、「Microsoft PowerPoint 2024」を追加しました。

Antenna House PDF Driver API V8.0

製品説明書　2025.2.4

© Antenna House Inc. 2022-2025 All Rights Reserved.